

令和6年度 本地区における児童生徒の体力・運動習慣等の実態（概要版）

＜令和6年度県児童生徒体力・運動能力調査の結果から＞

1 令和6年度の本地区と県のTスコアによる比較

種目 学年	握力		上体起こし		長座体前屈		反復横とび		20mシャトルラン		50m走		立ち幅とび		ボール投げ	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
小2	△	△	▲	▲	△	△	◎	○	○	△	△	○	○	△	○	○
小4	▲	△	△	△	○	▲	△	○	△	○	△	○	△	○	○	○
小5	△	▲	▲	▲	○	△	▲	△	▲	△	△	○	△	▲	△	○
小6	▲	△	△	○	○	△	◎	◎	○	○	△	○	○	△	○	△
中1	▲	◎	△	◎	▲	△	△	○	△	○	△	○	△	○	▲	◎
中2	△	△	▲	○	▲	◎	△	△	△	△	○	◎	△	△	○	△

【Tスコア】 ◎52以上 ○50以上52未満 △50未満48以上 ▲48未満

※ Tスコアは、集団の平均値を50とします。◎○は、県平均を上回っている種目です。

全体的に見ると、39.6%の種目が県平均を上回っています（小学校40.6%，中学校37.5%）。

種目別では、小学校においては、男女でボール投げ、男子で長座体前屈、女子で反復横跳び・50m走が県平均を上回る学年が多く、男女で握力・上体起こし、男子で50m走、女子で長座体前屈・立ち幅跳びに課題があります。また、中学校においては、男子は握力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・20mシャトルランに課題があります。女子は上体起こし・50m走が高くなっています。

各学校では、学校全体の傾向を把握するとともに、個人の体力課題を明確にし、体力を高める必要性を理解させる必要があります。そして、授業において、児童生徒に運動の特性を十分味わわせ、運動の楽しさを実感させる工夫・改善を図ることが必須です。

また、同時に、学校・家庭・地域が一体となって、児童生徒の運動習慣の育成に向けた取組を計画的・継続的に推進していくことが重要です。

2 令和6年度の本地区児童生徒の体育の授業に対する意識

意識 校種等	楽しい		やや楽しい		あまり楽しくない		楽しくない	
	地区	県	地区	県	地区	県	地区	県
小学男子	69.4	74.3	23.8	20.2	3.8	4.0	3.0	1.5
小学女子	56.7	63.7	32.6	28.3	8.1	6.3	2.6	1.7
中学男子	66.3	57.7	29.7	33.8	2.0	6.4	2.0	2.1
中学女子	45.1	42.5	44.5	44.0	8.8	10.3	1.6	3.2

全ての児童生徒が楽しく安心して学習に取り組めるように、「個に応じた指導」の一層の充実を図り、運動の特性に応じた楽しさを味わうことができる場面を保証しましょう。

そのために、「○○ができるようになりたい」「自分のペースで学習できる」「運動のコツやポイントを理解できる」「友だちに認めてもらえる」「夢中になって体を動かす」などの視点を基に、学習過程や場づくり、教材・教具等の工夫・改善に取り組むことが大切です。